

農業技術情報

令和3年9月1日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター

十勝東部支所 015-572-3128

J A 十勝池田町 572-3131

高島支所 573-2111

池田町産業振興課 572-3118

農作物の生育・作業の状況（池田町 9月1日）（ ）内は平年値、斜体は前年値

作物名	遅速日数	生育状況		生育状況 農作業状況
秋まき小麦	-			
馬鈴しょ(メークイン)	+5	いも数 10.7 (100) 個/株 澱粉面 129 (129)%	1個重 95.6 (92.6) g	収穫始 8/30 (8/27)
馬鈴しょ(男爵)	-	いも数 9.0 (8.8) 個/株 澱粉面 13.9 (12.9) %	1個重 107.0 (106.8) g	
てん菜(移植)	+4	根周 37.7 (36.6)cm		
てん菜(直播)	+3	根周 32.9 (30.9)cm		
大豆	+6	草丈 59.5 (73.1)cm 葉数 9.0 (9.5)枚	着莢数 538.0 (504.2)個/m ²	
小豆	+2	草丈 58.0 (54.9)cm 葉数 10.9 (10.0)枚	着莢数 290.4 (258.6)個/m ²	
菜豆 (大正金時)	+5	草丈 42.5 (50.4)cm 葉数 3.7 (4.2)枚	着莢数 152.8 (132.7) 個/m ²	
菜豆(福勝)	-	草丈 49.4 (59.3)cm 葉数 4.1 (4.0) 枚	着莢数 122.1 (135.2)個/m ²	
菜豆(手亡)	+5	草丈 66.6 (51.3)cm 葉数 7.6 (7.4)枚	着莢数 243.0 (212.7) 個/m ²	
牧草	-6	2番草 草丈 81.0 (90.0)cm	収穫始 8/27 (8/22)	
サイレージ用 とうもろこし	+4	稈長 262.0 (289.9)cm		乳熟期 8/20 (8/24) 糊熟期 9/2 (9/6)
たまねぎ (直播)	-			倒伏始 7/22 (8/8) 倒伏期 7/26 (8/11)

1 秋まき小麦

(1) 雑草対策

イネ科雑草は越冬後に対処するのが難しいので、必ず秋処理を行いましょう。特に連作の場合、増加が懸念されます。多年生雑草が多い場合は、は種後の処理が困難になるため、グリホサート系除草剤による耕起前処理を行いましょう。

また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、は種後出芽前に土壤処理を実施するようにしましょう。

雑草が小麦に与える害としては「養水分の収奪」「病害虫繁殖の助長」などがあり、結果的に収量、品質の低下に繋がります。除草剤を適正に使用し、雑草対策を行ってください。

*グリホサート系除草剤例については前号(8/15)、前々号(8/1)を参照ください。

<雑草の種類に応じた除草体系例>

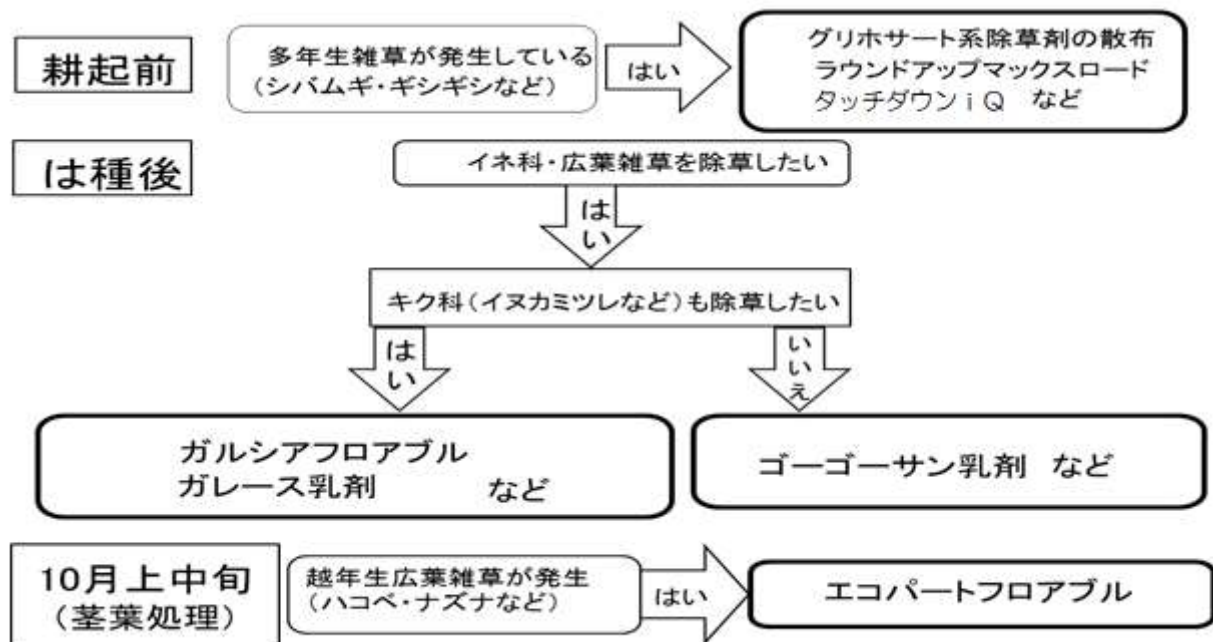


表 1 秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	10a 当薬量 (ml)	使用回数
ガレース乳剤	全面土壤散布 (雑草発生前)	は種後～出芽前	200	1回以内
		小麦出芽後～出芽揃	150～250	
	土壤兼雑草茎葉散布	麦の1～3葉期	100～150	
ガルシアフロアブル	全面土壤散布	は種後出芽前(雑草発生前)	150～250	1回以内
	雑草茎葉散布 又は全面土壤散布	小麦出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～200	
エコパートフロアブル	雑草茎葉散布	小麦2～4葉期	50～75	2回以内

(2) は種前準備

高収量・高品質の小麦づくりは適期適正は種からスタートします！

根張りが良く強い株を均一に作るために、過湿状態時のは種床準備は避けましょう。また、道内各地で様々な種子伝染性病害や土壌病害の発生が拡大しています。リスクを最小限にするために土の移動に注意し、自家種子の使用は避けましょう。

ア 排水、土壌改良、銅欠乏対策

- ・透排水性の劣るほ場では、心土破碎などにより耕盤層を改善しましょう。
- ・は種前に必ず土壌酸度を測定し、pH5.5 以下の場合は 5.8 を目標に酸度矯正をしましょう。
- ・銅欠乏症状の出やすい土壌（腐植の多い火山性土等）には、銅の補給が必要です（Cu 入り肥料等や堆肥の施用）。ただし、銅は微量元素で過剰障害も生じやすいので、土壌診断の基準値に基づき、適正量の肥料を施用しましょう。

イ は種と施肥量

① は種時期

越冬前の葉数は5葉を目標に、4～6葉が確保できる時期が「は種時期」です。越冬前に適正な生育量を確保するため、表2を参考に適期は種を心がけてください。

表2 小麦の極端な早まき、遅まきのリスク（R2「北海道の小麦づくり」一部改変）

	リスク
極端な早まきの場合	<ul style="list-style-type: none">・過繁茂になりやすい。<ul style="list-style-type: none">→生体を維持するための消費が大きく、寒・冬害を受けやすくなる。→地上部の通気性が不良となり、病害虫の発生を助長する。→茎が軟弱徒長傾向になり、倒伏の危険性がある。・縞萎縮病の感染期間が長くなるため、感染のリスクが高まる。
遅まきの場合	<ul style="list-style-type: none">・越冬前の生育が不十分となりやすく、寒害や凍上害(断根、根浮き)を受けやすくなる。・は種時期が遅くなるほど雪腐病の発病度が高まり、減収・品質低下の要因となる。・成熟期が遅れ、雨害（穂発芽等）にあう危険性が高まる。・遅れ穂が多発しやすくなり、登熟ムラや粒の充実不足等が起きやすい。・地温が低くなるため、なまぐさ黒穂病の感染リスクが高まる。

② は種量

小麦種子の発芽率が90%の場合、適期は種で160～170粒/m²とし、は種時期の早晚により、は種粒数を増減します。

表3 は種時期別のは種量例（池田アメダス過去10年平均気温から積算気温を算出）

は種時期	早期		適期	晩期
	9/15～19		9/20～24	9/25～9/28
は種粒数(粒/m ²)	120～150		160～170	～255
は種量(kg/10a)	土幌町産	4.8～6.0	6.4～6.9	～10.3
	足寄町産	4.7～5.8	6.2～6.6	～9.9

※は種量は千粒重を土幌町産40.3g、足寄町産38.9g(2021年産)として算出。種子の粒重に応じては種量を調整しましょう。

<は種量計算例>

千粒重40.3g、m²あたりのは種粒数160粒/m²で計算する場合

【千粒重(g)】×【は種粒数(粒/m²)】÷1000=【は種量(kg/10a)】

40.3(g) × 160(粒/m²) ÷1000

0.0403(kg) × 160000(粒/10a) ÷1000 = 6.4(kg/10a)

③ は種深度

は種が深すぎると二段根になり、出芽ムラも重なって初期生育は劣ります。均一な出芽と良好な初期生育を確保するために①碎土を細かくしすぎない、②は種前に鎮圧する等の処理を行い、は種深度は2～3cmとします。

浅まきの場合、出芽は早くなりますが根張りが悪くなり、その後の生育に影響してきます。また、深まきした場合は出芽が遅れ、越冬前の生育量が足りずに雪腐病発症の危険があるため、適正なは種深度を守りましょう。

④ 施肥量

越冬前に小麦が吸収する窒素は4kg/10a程度です。リン酸、カリ、苦土は全量基肥として施用しましょう。過剰な基肥施用はコストが無駄になるほか、越冬後の茎数コントロールが困難になります。また、土壤凍結が浅い年では下層に流亡して地下水・河川汚染の原因となりますので、適正な施肥を行いましょう。

表4 は種時の施肥量 (kg/10a) (北海道施肥ガイド2015より)

土壌型	低地土	泥炭土	火山性土	台地土
窒素	4	4	4	4
リン酸	12	14	15	14
カリ	9	10	10	9
苦土	3	4	4	4

【基肥施肥例:「BB850」×50kg/10a(窒素-リン酸-カリ-苦土=4-12.5-5-2.5kg/10a)】

十勝管内では未発生ですが、なまぐさ黒穂病の耕種的防除も併せて行いましょう。
 ☆必ず種子消毒済みの採種ほ産種子を使用し、適期は種を目指しましょう。
 ☆は種床は膨軟にしすぎず、適正は種深度(2~3cm)を守りましょう。
 深まきは出芽までの日数を要し、感染のリスクが高まります。

2 ばれいしょ

収穫は3日遅く8/30に始まり、順調に進んでいます。

〈収穫作業〉

- ・ 収穫が遅れると、黒あざ病による腐敗、緑化、品質の低下が懸念されます。
- ・ 掘り取り後は腐敗を防ぐため、風乾を十分に行ってください。
- ・ 選別時や網コン等への投入時には、傷、打撲などができないよう注意しましょう。

3 豆 類

好天が続き、成熟は例年よりも大幅に早まっています。大豆は+6日、小豆は+2日、金時は+5日、手亡は+5日で進んでいます。金時はすでに収穫作業が始まっているほ場も見受けられます。

(1) インゲンマメゾウムシの防除 (菜豆)

インゲンマメゾウムシの成虫は、7月下旬以降に出現し、8月上旬~9月上旬に発生が見られ、成熟の早い菜豆が被害を受けやすくなります。防除時期は、下記を目安にして下さい。

- ◎ 金時防除適期：莢の色が抜け、白莢が見える時期
- ◎ 手亡防除適期：子実が大きくなり、莢の色が抜けて白莢が見える時期
(金時から1週間後程度が目安)

表5 インゲンマメゾウムシの防除薬剤例

薬剤名	成分 (系統名)	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	備考
バイスロイド乳剤	シフルリン (合成ピレスロイド)	2,000	7日	3回	アブラムシ類に 登録あり。
ダントツ水溶剤	クロチアニジン (ネオニコチノイド)	2,000	前日	3回	アブラムシ類に登録 あり。(2000~4000倍)

(2) 金時の収穫

すでに収穫が始まっているほ場もあります。登熟状況と天候を見ながら、収穫方法に応じて適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

収穫が早すぎると、へこみ・つぶれ粒が発生しやすくなり、収穫が遅れると色流れ粒・裂皮・割れ粒が発生しやすくなります。収穫時には収穫機械、脱穀機の調整を確認するようにしましょう。

○ピックアップ収穫

- ・ 収穫・脱穀適期：完熟期（熟莢率ほぼ100%）から6日以内
- ・ 作業速度：0.7m/s以下
- ・ 倒伏程度によらず収穫が可能（ビーンハーベスタまたはビーンカタ）

○ダイレクト収穫

- ・ 収穫・脱穀適期：完熟期（熟莢率ほぼ100%）から6日以内
- ・ 作業速度：0.6~0.8m/s（総重量700g/m²以上では0.6m/s未満）
- ・ 倒伏が見られるほ場では、作業機の速度は0.5m/sで収穫してください。倒伏がひどいほ場では追い刈り収穫を行ってください。

脱穀時は子実水分を考慮し、こぎ胴の回転数を調整します。

※26%以上の高水分では押傷・つぶれ粒が多発し、18%以下の低水分ではこぎ胴が低回転でも裂皮粒が多発します。また、適水分（19~23%）でも300回転以上では損傷粒が発生します。

《参考》金時の子実水分の簡易判定基準(H13十勝農試技術普及部)

子実水分(%)	指で押した場合	爪で押した場合
30	強く押すと弾力性を感じる	爪痕の周囲が広範囲にへこむ
22	強く押すとへこむ	爪痕の周囲が広範囲にへこむ
20	へこまない	爪痕が深くへこむ
18	へこまない	爪痕が浅くへこむ
15	へこまない	爪痕がかすかにつく(完熟)

(3) 白系菜豆（手亡・福白金時）の汚粒・損傷について

近年、ピックアップスレッシャの収穫が主体になっており、汚粒や損傷が散見されます。手亡類は完熟期で子実水分が25%程度まで低下しますが、金時類と比べそれ以降の水分の減りが遅いため注意が必要です。汚粒や損傷を避けるために、以下のことに注意しましょう。

- ・完熟期にすぐ収穫できない場合は、島立て・にお積みを含めた作業体制を検討する。
- ・降雨直後や高水分での収穫は避ける。（手亡類は子実水分20%以下（完熟期から1週間以降）で収穫可能）
- ・収穫前に雑草の抜き取りを行う。
- ・過乾燥・葉落ちの悪い豆は、スレッシャの脱穀スピードを抑える。

(4) 小豆の収穫

収穫適期の目安は「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表6 小豆の収穫適期の目安（H14・H16 中央農試 H9 十勝農試）

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫	100%（子実水分16～18%） 完熟期（熟莢率100%）から2週間以内	熟莢率80%、子実水分25%程度
ダイレクト収穫		①汎用コンバイン（4条）～熟莢率90%、子実水分25%程度 ②豆用コンバイン（2条）～熟莢率80%、子実水分25%程度

4 てんさい

移植の生育は平年に比べ+4日、根周は平年をやや上回る状況です。直播も同様に+3日と進んでいます。

(1) 褐斑病の防除（最終）

防除時期	薬剤名	系統名	使用濃度	使用時期（収穫前）	総使用回数
9月上旬	グリーンダイセンM 水和剤	マンゼブ	500倍	21日	5回

(2) 床土の準備

来年用の床土を準備する際には病気の恐れのない土を用意し、pH測定後、6.0～6.5になるよう酸度を矯正しましょう。

ほのぼの情報や農作物防除基準を参考に適正防除に努めてください。

～農薬の安全使用と農作業事故防止に努めましょう～

例年、夏から秋の収穫時期に事故が多くなります。

特にハーベスタによる「挟まれ・巻き込まれ」の事故に十分注意しましょう。

☆だぶつきのない格好で作業しましょう。

☆緊急回転停止装置を複数装備しましょう。

☆選別部に物が詰まった場合は、必ず回転を止めてから除去してください。

☆機械走行中の飛び乗り、飛び降りは絶対にやめましょう。

☆機械周辺では、声を掛け合って事故防止に努めましょう。